■山岡鉄舟 剣術家。幕臣として江戸の無血開城実現に貢献、明治天皇の侍従になる一方、無刀流剣術の開祖となった。

やまおかてつしゅう

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 江戸本所大河端で、600石の幕臣御蔵奉行小野朝右衛門の五男に生まれる。

大塩平八郎乱 1837 = 1歳 :

順天堂始 ・ ・ 1843 = 7歳 : この頃から観世音を信仰する。

天保改革終 ・ 1844 = 8歳 : 剣法を学ぶ。

阿部正弘首座 1845 = 9歳 : 飛騨の郡代となった父に従い、母とともに飛騨高山に行く。

孝明天皇 ・ ・ 1846 = 10歳 : 習字と素読を学ぶ。

この間、父が高山に招いた井上清虎に一刀流を学ぶ。

国定忠治疎 ・ 1850 = 14歳 : 父の代参として伊勢に詣で、国学者足代弘訓を知る。「修身二十則」をつくる。岩佐一亭に書を習う。

尊徳報徳論 ・ 1851 = 15歳 : 母が病死。

万次郎帰国 ・ 1852 = 16歳 : 父も病死したため、江戸に帰る。その後、苦勞しながら幼弟5人を養育しつつ、

ペリー来航 ・ 1853 = 17歳 :

開国開港 ・ ・ 1854 = 18歳 :

安政大地震 ・ 1855 = 19歳 : 講武所に入って、千葉周作に剣法を学ぶ。槍術を山岡静山に学ぶが、師の急逝により、望まれて家名を継ぐことになり、静山の妹英子と結婚した。

松下村塾 ・ ・ 1856 = 20歳 : 剣道の技倆拔群により、講武所剣術世話役となる。

蕃書調所 ・ ・ 1857 = 21歳 : 「修身要領」をつくる。この頃から数年間、迷いを亡くすため、徹底した色情修行をする。

五ヶ国条約 ・ 1858 = 22歳 : 憂国の志を抱き、「宇宙人間」をつくって、自己の進むべき方針とする。

安政の大獄 ・ 1859 = 23歳 : 尊皇攘夷党を結び、清川八郎らと盟約し、「生死何レガ重きか」を成し、

桜田門外変 ・ 1860 = 24歳 :

8月18日政変 1863 = 27歳 : 浪士団を引率して上洛するなど、激動の時代のなかで活躍した。

禁門の変 ・ ・ 1864 = 28歳 : 「父母の教訓と剣と禅とに志せし事」「某人傑と問答始末」、

明治維新 ・ ・ 1868 = 32歳 : *精鋭隊歩兵頭格となり、徳川慶喜の特旨を受けて単身官軍の営所に乗り込み、西郷隆盛と会見して勝海舟との会談を周旋し、江戸を戦火から救った(江戸開城)。

静岡に在って、清水次郎長と知り、まら、旧幕臣の善後処置に取り組んだのち、

廃藩置県 ・ ・ 1871 = 35歳 : 新政府に出仕し、茨城県参事、伊万里県権令を経て、

学問のすすめ 1872 = 36歳 : *侍従番長となり、明治天皇に仕えて信任を得る。

明治6年政変 1873 = 37歳 : 皇居炎上の際には、淀橋からかけつける。宮内少丞、

佐賀の乱 ・ ・ 1874 = 38歳 : 西郷隆盛説得のため、九州に派遣される。宮内省庶務課長、

初の民間工場 1875 = 39歳 : 宮内大丞、

西南戦争 ・ ・ 1877 = 41歳 : 宮内卿代理から、華頂官家取締役、

この間、越中国泰寺の越叟を知って、寺の再興に尽力し、禅の修行も積んで、

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 44歳 : *剣禅一致の境に達し、劍の師浅利又七郎から一刀流の印可をうけ、無刀流一派を開いた。

明治14年政変 1881 = 45歳 : 従五位、宮内少輔、

新体詩抄 ・ ・ 1882 = 46歳 : 「剣法邪正辨」。元老院議員。宮内省を辞したが、恩令により、宮内省御用掛、正四位。

岩倉具視没 ・ 1883 = 47歳 : 四谷の自邸に道場春風館を設けて一刀正伝無刀流を唱道し、多くの逸材を養成した。

内閣発足 ・ ・ 1885 = 49歳 : 「書法について」、

国民之友始 ・ 1887 = 51歳 : 華族に列せられ、子爵。胃癌を病む。

初の対等条約 1888 = 52歳 : 従三位。*川合清丸・鳥尾小弥太らと日本国教大道社を結成後、坐禅のまま没した。勝海舟、高橋泥舟と共に幕末三舟と称される。